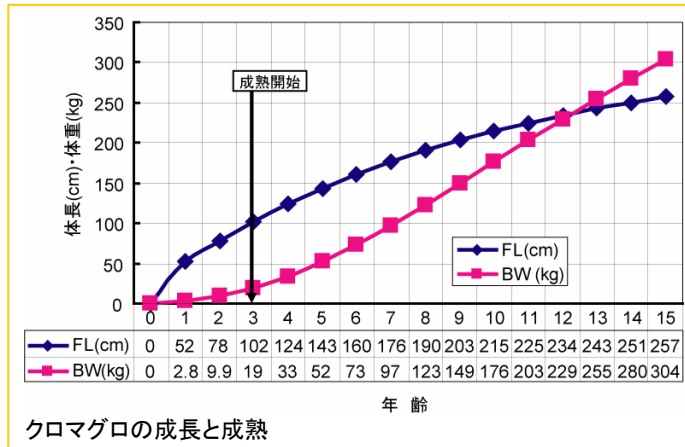


## クロマグロ 太平洋

### Pacific Bluefin Tuna, *Thunnus orientalis*

#### 最近一年間の動き

2006年1月のISCクロマグロ作業部会で資源評価が行われたが、同年3月のISC本会議で、その資源解析結果に残された大きな不確実性を考えると資源状態について明確なことは言えない、と結論された。2006年、メキシコの漁獲量が9千トンを超えた。2006年9月のWCPFC北委員会では、ISCでのクロマグロの資源評価にまだ不確実性が高いため、2008年までに資源の再評価をISCに求めた。



クロマグロの成長と成熟

#### 管理・関係機関

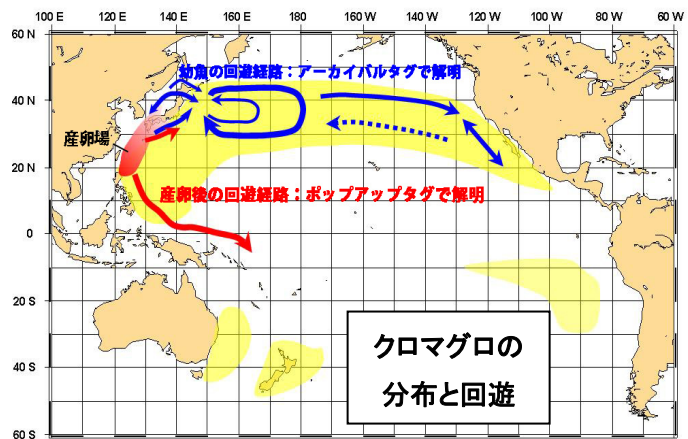
中西部太平洋まぐろ類委員会(WCPFC)、北太平洋におけるまぐろ類及びまぐろ類似種に関する国際科学委員会(ISC)、全米熱帯まぐろ類委員会(IATTC)

#### 利用・用途

刺身・すしなど

#### 生物学的特性

- 寿命: 10歳以上
- 成熟開始年齢: 3歳
- 産卵期・産卵場: 日本南方～フィリピン沖で4～7月、日本海で7～8月
- 索餌場: 温帯域
- 食性: 魚類、甲殻類、頭足類、他
- 捕食者: まぐろ類、シャチ、さめ類

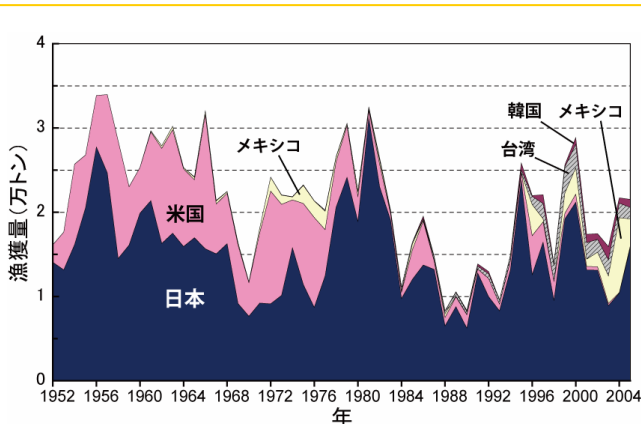


#### 漁業の特徴

漁獲の大半はまき網による。西部太平洋では、日本・台湾・韓国が、沿岸でひき縄と定置網漁業で未成魚を中心に周年漁獲し、沖合ではまき網漁業で未成魚・成魚を夏季に漁獲している。沖合のはえ縄漁業はより大型の成魚を漁獲している。東部太平洋では5～10月に米国とメキシコがまき網で漁獲し、そのほとんどはメキシコで蓄養原魚となる。日本では0歳魚を用いた蓄養が行われている。

### 漁獲の動向

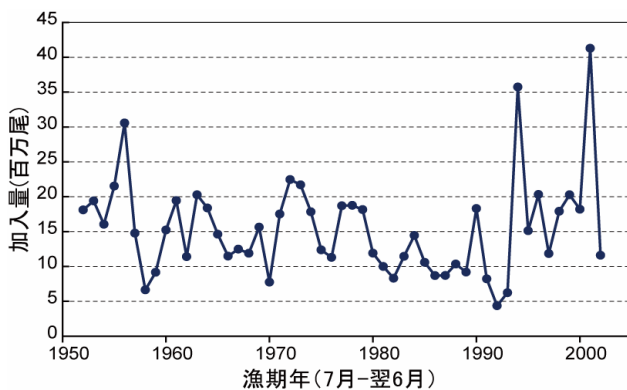
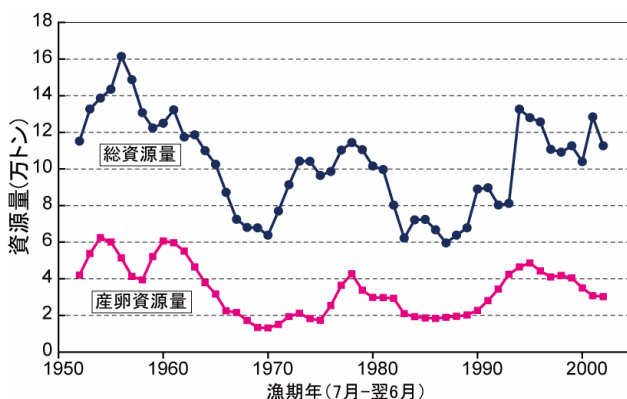
年間総漁獲量は 8 千～3 万 4 千トンの間を周期的に変動している。近年では 1981 年に 3 万 2 千トン記録した後、1988 年に 8 千トンまで落ち込んだ。1980 年を境に東部太平洋での漁獲量は努力量とともに顕著に減少している。2001～2005 年の漁獲量は、西部太平洋で 1 万 2 千～1 万 8 千トン、東部太平洋で 1～9 千トンと推測される。尾数では、漁獲物の 8～9 割は 0～2 歳魚で、最近では 0 歳魚が増える傾向にある。



国別漁獲量の推移 (2005 年は遠水研推定値)

### 資源状態

1980 年以前の体長組成・漁獲量・資源量指数の精度不足のほか、成長などの生物学的知見にも大きな不確実性があることから、まだ資源状態について結論は出ていない。



総資源量・産卵親魚量(上)と、加入量(0 歳魚)(下)の推定値の一例

### 管理方策

ISC は資源解析結果に非常に大きな不確実性があることから予防的措置として漁獲死亡率をこれ以上増やすべきでないと勧告した。WCPFC 北委員会は、まず ISC に 2008 年までに資源の再評価を求めた。

### 資源評価まとめ

- 資源評価は ISC で実施
- 評価手法にはチューニング VPA を主体に、統合モデルを補足的に採用
- 資源状態は不確実性が大きく調査中

### 資源管理方策まとめ

- 資源解析結果は不確実性が高い
- ISC は 2008 年までに資源を再評価する

### クロマグロ(太平洋)の資源の現状(要約表)

資源水準	調査中
資源動向	調査中
世界の漁獲量 (最近 5 年)	15,920～22,830 トン 平均: 19,060 トン
我が国の漁獲量 (最近 5 年)	8,920～15,748 トン 平均: 12,275 トン